

「博士進学率減は経済的理由が主 修士課程修了者の調査で判明」

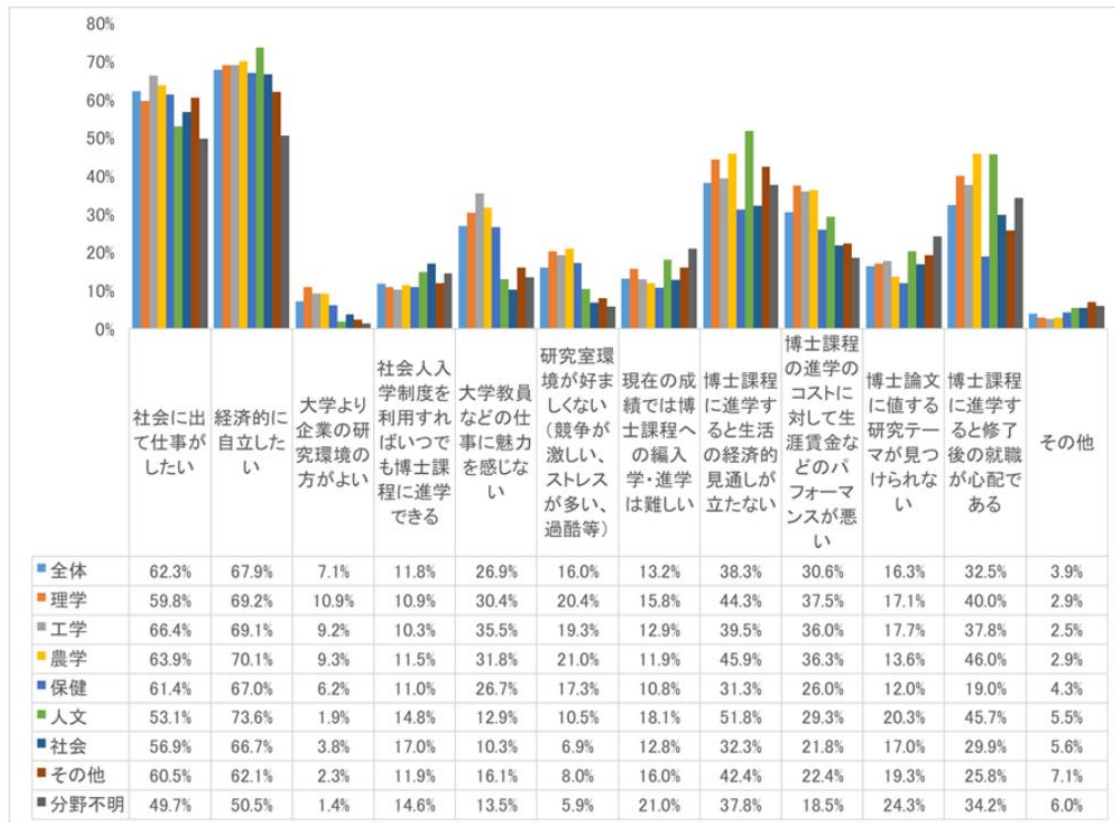
「進学すると生活の経済的見通しが立たない」。修士課程修了後、就職を選択した人たちの 38.3%が、博士課程に進学しない理由をこのように説明していることが、科学技術・学術政策研究所の調査で明らかになった。博士課程進学者の減少に対する危機意識は近年、日本国内で高まっているが、改善の兆しはいまだ見えない現実を示す結果と言えそうだ。

6月29日に公表された科学技術・学術政策研究所の「修士課程（6年制学科を含む）在籍者を起点とした追跡調査」は、修士課程修了予定者に対する初めての全数調査。修士課程在籍中の経済的支援状況や、修士課程修了後の進路、博士課程に進学しないならその理由などを聞いている。2014年からこれまで3度実施した「博士人材追跡調査」を補完する目的で、昨年11～12月、アンケートによる手法で行われた。今年3月に修士課程（6年制学科を含む）を修了する予定者12万5,418人のうち、1万6,311人（有効回答率13.0%）から回答を得た。

経済的に自立したいも 67.9%

進路予定を尋ねた回答で「博士課程への進学」は、10.2%にとどまった。「就職先が決定している」（62.1%）か「就職活動中」（9.0%）と答えた人たちに進学ではなく就職を選択した理由を尋ねたところ、38.3%が「博士課程に進学すると生活の経済的見通しが立たない」を挙げた。「博士課程の進学のコストに対して生涯賃金などのパフォーマンスが悪い」が30.6%。「経済的に自立したい」67.9%を合わせると、経済的な理由が博士課程に進学するかどうかに大きな影響を与えていることが分かる。このほかでは「博士課程に進学すると修了後の就職が心配である」を挙げた人が32.5%いたのが目を引く。

就職を選択した理由



(科学技術・学術政策研究所調査資料「修士課程(6年制学科を含む)在籍者を起点とした追跡調査」から)

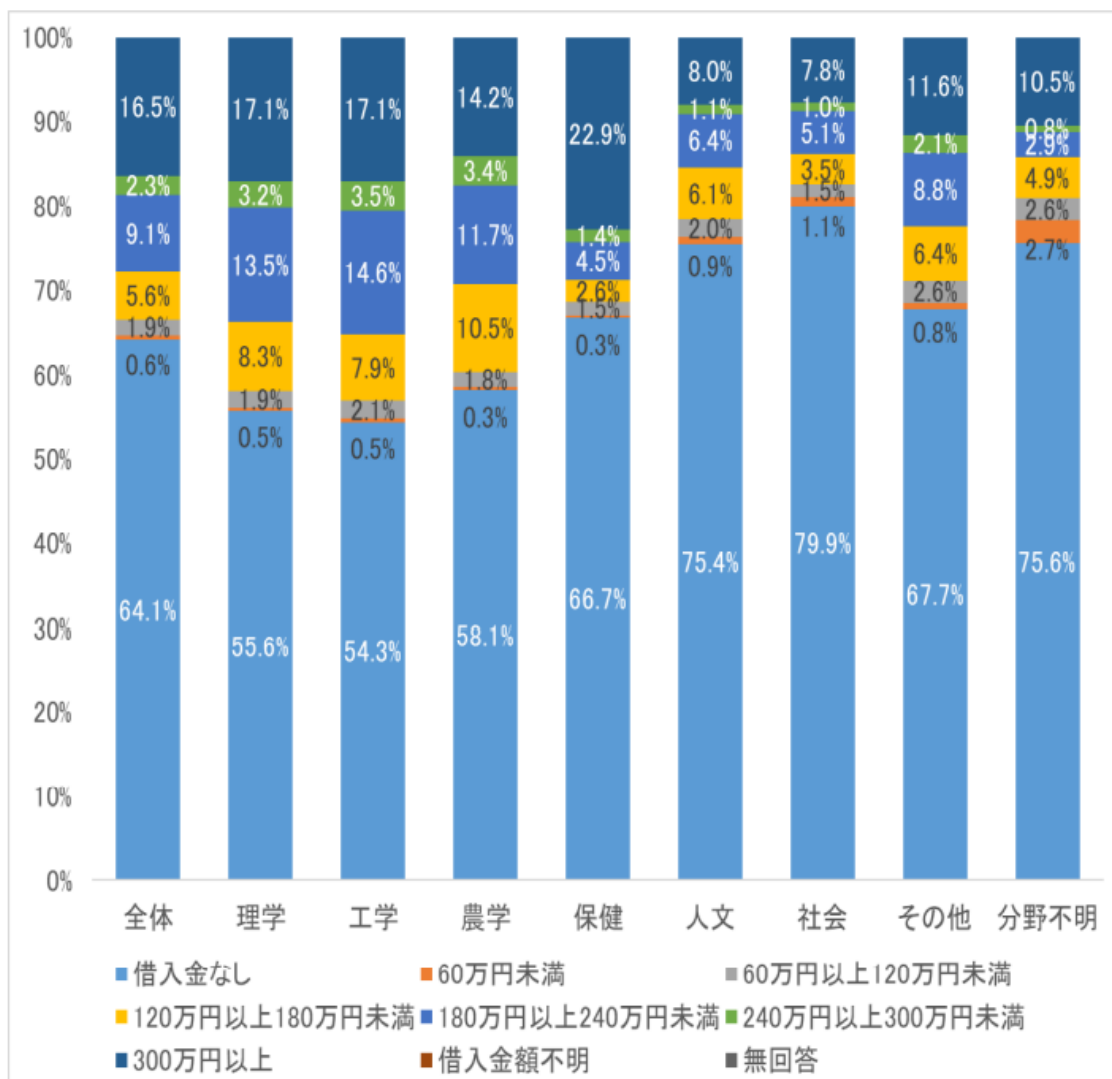
「博士課程進学予定者」(10.2%)と「博士課程進学を準備中」と答えた人たち(1.7%)に、進学理由を尋ねたところ、「博士号を取れば、良い仕事や良い収入が期待できるから」は13.1%にとどまった。「研究することに興味・関心があった」(46.0%)、「研究したい課題や問題意識があった」(42.4%)、「自分自身の能力や技能を高めることに関心があった」(35.5%)、「大学教員や研究者になるために必須だった」(29.4%)との差は大きい。博士号をとることがよい収入につながる、と期待する修士課程修了者が少数派であることをはっきり示す結果となっている。

16.5%が300万円以上の借入金

修士課程在籍時点ですでに経済的には厳しい状況にあることを示す結果も出ている。返済義務のある奨学金などの借入金があると回答した人は35.9%に上る。借入金額でみると300万円以上が16.5%と最も多く、240万円以上300万円未満が2.3%、180万円以上240万円未満が9.1%、120万円以上180万円未満が5.6%、60万円以上120万円未満が1.9%で、60万円未満は残りの0.6%だけ。借入金の額が高額に上る修士課程修了予定者が少な

くない実態が分かる。

借入金

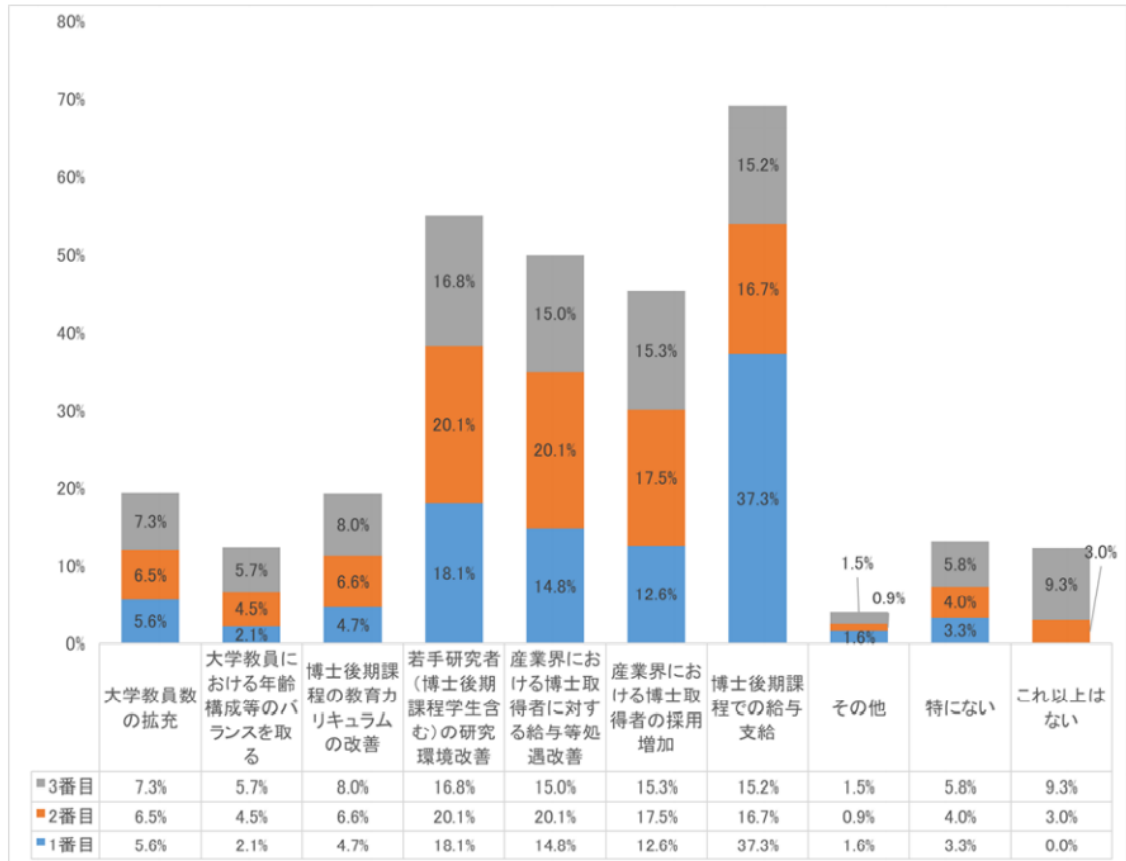


(科学技術・学術政策研究所調査資料「修士課程(6年制学科を含む)在籍者を起点とした追跡調査」から)

博士課程に給与支給を

博士課程への進学者を増加させるために何が一番効果的か。効果が高いと考える順に三つまで尋ねた結果からも、経済的対応を求める声の大きさがはっきり示された。「博士課程での給与支給」を一番目に挙げた人が37.3%と最も多く、二番目、三番目に挙げた人たちを加えると69.2%に上る。次いで多いのが「若手研究者(博士後期課程学生含む)の研究環境改善」の18.1%(二番目、三番目を合わせると55.0%)、「産業界における博士取得者に対する給与等処遇改善」14.8%(同49.9%)、「産業界における博士取得者の採用増加」12.6%(同45.4%)となっている。

博士課程進学者を増加させるための重要な政策



（科学技術・学術政策研究所調査資料「修士課程（6年制学科を含む）在籍者を起点とした追跡調査」から）

科学技術政策の司令塔である総合科学技術・イノベーション会議は昨年1月、「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」を策定した。若手をはじめ、研究者を取り巻く状況は厳しく、研究者の魅力が低下している現状を認め、具体的な対策の一つとして博士後期課程学生に対する「生活費相当額程度の支給」という目標を掲げている。これは今年3月26日に閣議決定された第6期科学技術基本計画（期間2021～2025年度）にほとんどそのまま盛り込まれた。

「優秀な若者が経済的な心配をすることなく自らの人生をかけるに値するとして、誇りを持ち博士後期課程に進学し、挑戦に踏み出す」。さらに具体的な数値目標として「2025年度までに生活費相当額を受給する博士後期課程学生の数を従来の3倍（修士課程からの進学者の7割に相当）に増加、将来的には、希望する優秀な博士後期課程学生のすべてが生活費相当額を受給する」と明記された。

日本工学アカデミーも緊急提言

一方、工学者や科学技術に関心の深い人々を会員とする政府から独立した機関である日本工学アカデミーは、5月19日に「博士後期課程大学院生に対する支援の強化にあたって」と題する緊急提言を公表した。小林喜光会長が、井上信治内閣府特命担当相、萩生田光一文部科学相を訪ねて手渡した緊急提言書は、博士後期課程大学院生を研究者としてきちんと位置づけることを求め、「授業料の徴収は行わない」、「生活費相当額を標準修業年限の間、支給する」という具体的施策を政府に求めている。授業料を徴収しない根拠として、フランス、ドイツ、オランダなどの欧州大陸諸国では博士課程学生に対する授業料はなく、米国でも自然科学系の有力大学では、大学あるいは教員が何らかの手当てをしていて、学生が授業料を支払うことはまれ、という事実を挙げている。

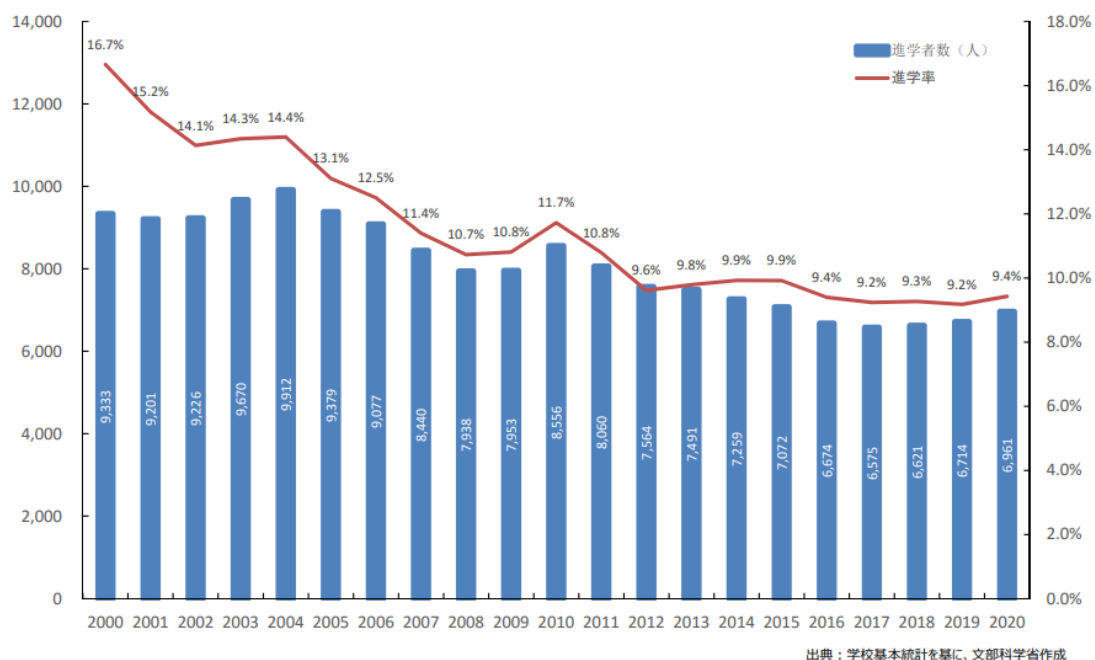
博士課程への進学率低下と日本の科学技術力に与える影響を懸念する声は早くから出ていた。医師として働く一方、研究者の社会的な役割について長年積極的な発信を続ける榎木英介科学・政策と社会研究室代表は、2010年11月発行の著書「博士漂流時代—『余った博士』はどうなるか?」で、博士が活躍できる場を増やすよう提言している。具体的に挙げた中に国会議員の政策秘書があった。しかし、いまだに国会議員の政策秘書どころか、「産業界における博士取得者の採用増加」を求める修士課程修了予定者が45.4%もいるという調査結果からみて、榎木氏の提言と現実の乖離は依然、大きい。

日本工学アカデミーは、博士後期課程修了後のキャリアパスを明確化することも大きな課題として具体的な対策を提言している。若手研究者のポストの拡充などを政府と大学に求めるとともに、博士後期課程在学中から社会を知る機会を幅広く設けておく必要を強調した。具体的には、民間企業などでの長期有給インターンシップの推進、さらには論文の指導、審査へ産業界の出身者が参加することなどを提言している。

文部科学省が4月28日に科学技術・学術審議会人材委員会で示した資料によると、修士課程修了者の博士課程への進学率は、2000年度の16.7%以降、減少傾向にあり、2020年度は9.4%。実数でも2000年度9,333人だったのが、2020年度は6,961人と四分の三に減っている。今回の科学技術・学術政策研究所の調査結果は、博士課程進学率がわずかに上回っているものの、依然、修士課程修了者の1割程度にとどまるという現実に大きな改善は見られない。

修士課程修了者の進学者数・進学率の推移

○修士課程修了者の進学者数・進学率が減少傾向にあり、2000年から2020年で**2,377人（7.3パーセント）減少**。



(文部科学省「科学技術・学術分野における人材の育成・確保をめぐる現状と課題」科学技術・学術審議会人材委員会(第91回)資料から)

科学技術・学術政策研究所の調査報告は、「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」に続き、「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロシップ創設事業」や、10兆円規模の「大学ファンド」の運用益を活用した助成策などが動き出したことを挙げ、政府の取り組みに一定の評価を与えている。しかし、「回答者が、いまだ切々と経済的支援の充実を訴えていることから分かるように、日本の科学技術イノベーション力が世界に伍していくものであり続けるためには、さらなる施策の充実が求められている」と一層の取り組み強化を提言している。

日文 小岩井忠道(科学記者)

関連サイト

科学技術・学術政策研究所調査資料「修士課程(6年制学科を含む)在籍者を起点とした追跡調査」

[NISTEP-RM310-FullJ.pdf](#)

日本工学アカデミー2021年緊急提言「博士後期課程大学院生に対する支援の強化にあたって」

[Teigen-20210519r.pdf \(eaj.or.jp\)](#)

内閣府「第6次科学技術・イノベーション基本計画」

[科学技術・イノベーション基本計画 \(cao.go.jp\)](#)

総合科学技術・イノベーション会議「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」

[「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」 \(cao.go.jp\)](#)

関連記事

2021年04月21日「日本东北大学前校长：让创新从大学开始萌芽」

[日本东北大学前校长：让创新从大学开始萌芽 - 客观日本 \(keguanjp.com\)](#)

2021年04月09日客观日本“[日本国会议员与年轻科学家交换意见，加深对共同制定政策的理解](#)”

2019年05月10日客观日本“[日本工程院发布紧急建议，遏止工序和科技能力下滑](#)”

2017年08月02日客观日本“[专访日本工学学会阿部会长：请教遏止科技能力下滑的对策](#)”

2010年11月29日サイエンスポータル「科学のおすすめ本 博士漂流時代『余った博士』
はどうなるか？」

[科学のおすすめ本一 博士漂流時代-「余った博士」はどうなるか？ | Science Portal - 科学技術の最新情報サイト「サイエンスポータル」 \(jst.go.jp\)](#)